

AI-OCR Solution

データ入力的时间はなくせる！

現場に負担をかけない「事務DX」で年900時間削減



agenda

- 01.なぜ、「手入力」から抜け出せないのか？
- 02.「点」の効率化で終わらせないための、解決策
- 03.人が紙に合わせない。帳票との理想の「付き合いかた」
- 04.【診断】貴社の課題を解決する「ロールモデル」
- 05.事務DXを成功に導くために

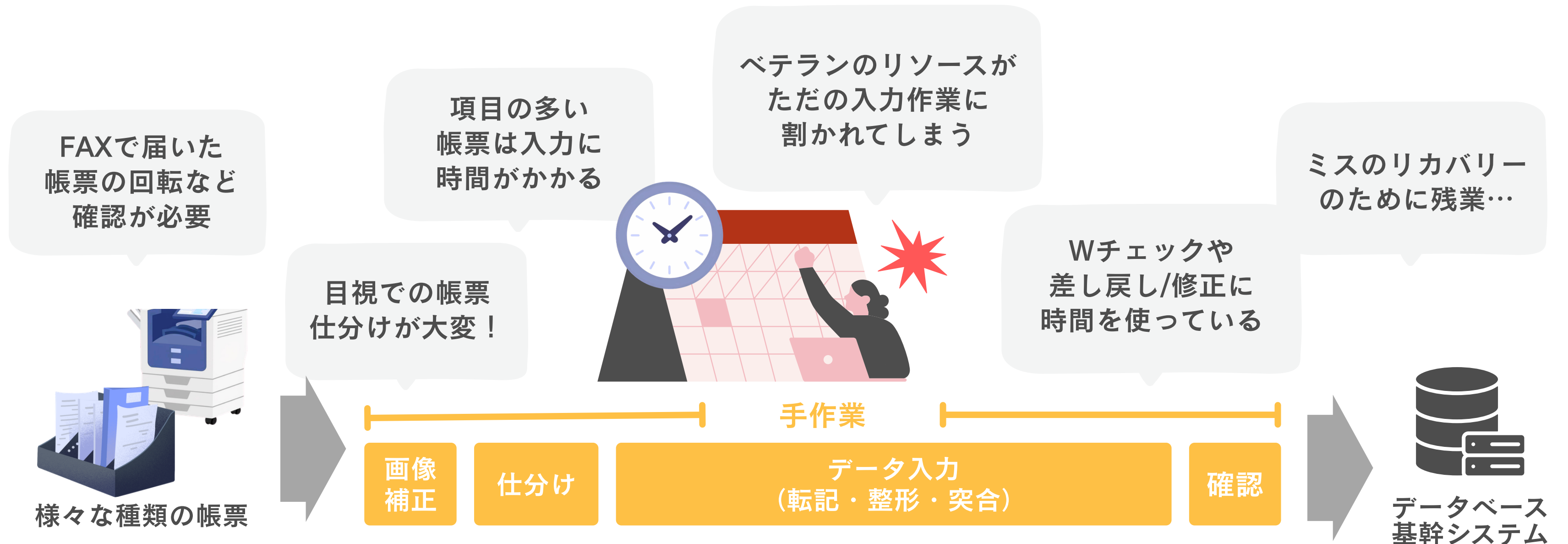


01

なぜ、「手入力」から抜け出せないのか？

その「手作業」が、組織の成長を止めていませんか？

どんな業界にもつきものの「帳票」。受発注、管理、申請管理など一つの企業でも様々な帳票を扱います。しかし、その裏側に隠れた膨大な工数が、現場の創造的な時間を奪うボトルネックになっています。



個人の努力だけでは突破できない「紙の壁」。

デジタル化を阻む要因は、取引先との関係や現場の即時性などが複雑に絡み合っています。

まずは、自社がどの「壁」に突き当たっているのかを正しく認識することが、自動化への第一歩です。

① EDI（電子取引）に未対応

FAX発注や、指定伝票の郵送など
自社だけではデジタル化できない外部要因がある

② 運用の都合で紙を利用する

報告書・アンケートなどその場で記入する
帳票や、紙の方が効率的な業務がある

③ 自社システムの壁

システムへの入力形式に合わせるための
データ加工が必要

④ 情報の追加や突合が必要

受注先の企業名や他社品名から、
自社のコードに変えるなど付随作業が必要

02

「点」の効率化で終わらせないための、解決策

「既に解決策を導入した」「検討している」方も要注意。

その解決策は、「部分最適」に終わっていませんか？ 重要なのは、単一のツールを入れる事ではなく、自社の業務フローに最適な組み合わせを見つける事です。中でもOCRは、選ぶ製品や組み合わせ次第でコストやシステムとの相性をバランスよく解決することが出来ます。

01

増員・アウトソーシング

メリット

- ・イレギュラーや複雑な作業に対応可能
- ・帳票処理以外にも対応

デメリット

- ・人員不足で雇用できない
- ・研修や教育が必要
- ・継続的なコスト増

02

電子化
ペーパーレス

メリット

- ・転記作業は100%削減
- ・データの信頼性が高い

デメリット

- ・取引先含め全てを変更することは困難
- ・残った手入力と運用が2重になる

03

OCR単体

メリット

- ・素早く読み取りが可能
- ・ミスを軽減できる

デメリット

- ・データ加工やコードへの変換など手作業が残る
- ・定義設定が難しい

04

RPAによる
データ加工

メリット

- ・手作業が不要になる
- ・24時間稼働が可能

デメリット

- ・イレギュラーに対応できない
- ・帳票からの転記は手作業のまま

既にOCRを導入するも「期待外れ」に終わった企業もあります。

精度への過度な期待、設定の属人化、そして読み取った後のデータ加工の分断など、多くの企業が陥る「OCR導入の罠」を先に知ること、ソリューションの選び方と真の効率化への道筋が見えてきます。

01

精度が低い

「OCR＝何でも読める」という期待に対し、実際の認識率が運用ラインに届かないケースです。

特に手書き文字や帳票との相性が悪いと、目視確認と手直しに追われ、人的コストが手入力時と変わらないという結果を招きます。

02

定義設定が難しい

帳票の種類が増えるたびに発生する、読み取り定義設定が大きな負担となるケースです。

設定が複雑で専門知識が必要だと、属人化が発生。現場で使いこなせず、新たなボトルネックを生んでしまいます。

03

データ加工が手作業

データ化はできても、整形やコード突合が手作業のまま残っているケースです。

読み取りという「点」を楽にしても、前後の線（整形・突合）が手作業のままであれば、組織全体の工数は変わりません。

03

帳票との理想の「付き合いかた」

目指すのは、「業務をシステムに合わせない」働き方。

帳票が届いた瞬間にデータ化が終わり、担当者は入力から解放され、業務が滞ることなく次へと進む。

そんな理想の帳票業務を思い描いてみてください。

「システムが業務に合わせる」ワークフローこそが、帳票との理想の付き合いかたではないでしょうか。



04

【診断チャート】

解決したい課題とロールモデル

では、貴社の「事務DXの正解」はどこにあるのでしょうか。

業務の特性や環境によって、進むべき道は異なります。似た悩みを抱えていた他社が、どのようにして「データ入力に関わる作業時間の削減」へたどり着いたのか。貴社に最も近い成功パターンを見つけましょう。

A

項目が多い帳票の処理

- 受発注業務をしている
- 取引先指定の帳票がある
- 項目数が多く入力に時間がかかる
- 入力ミスによる業務追加が発生
- 全社展開でコスト効率を高めたい
- オンプレミスで運用したい

→P.13へ

受発注データ入力を自動化した事例

B

大量の仕分けと格納

- 報告書など現場での紙帳票を扱う
- 帳票種類は多いが必要項目は同じ
- 帳票種類ごとの定義作成が手間
- 帳票のデジタル管理がしたい
- リネーム/格納を自動化したい
- マスタ参照やデータ加工がしたい

→P.14へ

仕分けと格納を自動化した事例

C

帳票が複雑・加工がある

- 定義作成をなるべく簡単にしたい
- ブラウザで手軽に利用したい
- 翻訳やローマ字変換をしたい
- 一部抜粋などの読取りがしたい
- はみ出しや複雑なレイアウト
- 図形など既存OCRが不得意な帳票

→P.15へ

AIで設定を複雑な設定ゼロにした事例

A [精度・時短重視]

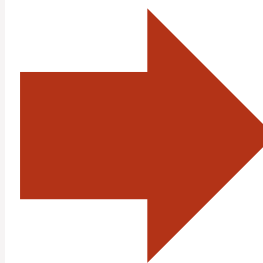
1枚あたりの項目が多い「注文書」の処理。2～3時間の手間とミスを大幅削減

業務：FA機器販売 導入製品：AIRead+自社製自動バッチ

メール、FAX、電話と様々な方法で届く注文書。データ入力後の業務をRPAによって効率化するも、データ入力は依然として手作業のままでした。AIRead+自社製の自動バッチで手間とミスの大幅削減を実現しました。

Before

- ペーパーレスを検討するも、データでの注文に対応できない顧客が複数存在し断念。
- 項目数の多い大口の注文は他業務との並行で処理に2～3時間かかることも。
- 手入力で発生するミスで、再手配や納期調整などの追加業務やお客様にもご迷惑を掛けていた。



After

- 項目数無制限のため、項目数の多い注文書を他社製品より低コストで読み取り。
- フォルダに格納するだけで読み取りから整形まで実行し、入力ミスも激減。
- オンプレミスのサーバー版で導入し、後に他部署にも展開することで全社的な高い費用対効果を実現。

B [大量処理・仕分け重視]

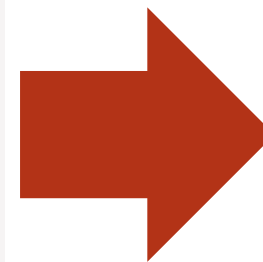
月6,000枚800種類の仕分けと入力を自動化。年間900時間の業務を「確認のみ」に

業務：紙カルテの管理 導入製品：AIRead + AIRead ETL Option

FAXで受領した紙の訪問介護報告書を、担当者が手入力する業務が毎月の大きな負担となっていました。従来型OCRを導入するも複雑な仕分けや設定のため手作業が続いていましたが、AIReadで大幅な工数削減を実現。

Before

- 少しずつレイアウトが異なる800種類以上の帳票に対し読み取り定義作成が必要
- 目視でレイアウト種類を確認し、読み取り定義を選択するため手間がかかる
- 入力が終わったカルテは一枚ずつファイリングし、キャビネットで保存している



After

- キーワード定義で、項目が同じ帳票は一つの定義を自動適用。
- 仕分けも読み取りも自動。人の作業はエラーの確認と修正のみに。
- 提供票を読み取ってファイル名をリネーム保存し、文書管理システムに保存するところまでの自動化。

C [設定の手軽さ・柔軟さ重視]

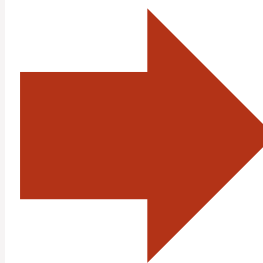
面倒な定義作成は不要。自然言語の指示一つで、翻訳・変換までAIが完結。

業務：旅行サービス（ツアー企画/コンダクター派遣） 導入製品：AIRead on Cloud

旅券・パスポート・ビザ申請書を扱う業務では、転記だけではなく英語への翻訳やローマ字への変換が必要でした。生成AIを活用したOCRにより、データ化と同時に加工まで完結させ、スムーズなシステム連携を実現。

Before

- 帳票ごとの形式や表記ルールがあり、手入力によるミスや確認作業が負担となっている
- 項目によっては翻訳やローマ字に変換してからの入力が必要で転記に時間がかかる
- 後処理システムで上記の処理をしようとすると定義作成以外にも複雑な設定が必要



After

- 自然言語での指示で簡単に読み取り設定。誰でも簡単に設定が可能。
- 複雑な設定を作らずに、AIが翻訳やローマ字変換をした状態でデータ化。
- 加工済みのデータをそのまま出力できるため、人手を介さずに業務システムへ連携する「一気通貫の自動化」を実現。

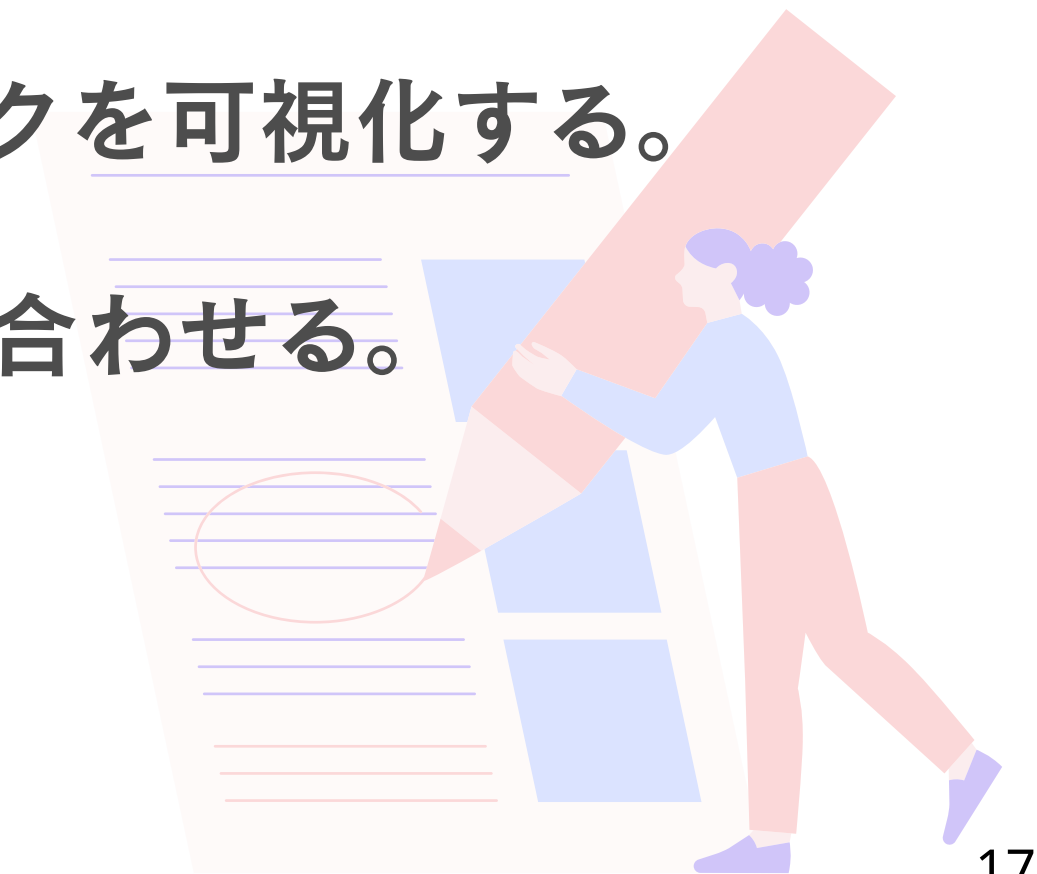
05

事務DXを成功に導くために

まとめ

紙業務の自動化は、もう夢の話ではありません。事務DXの第一歩は、「今の苦勞」を可視化することから。ご紹介したロールモデルをヒントに、貴社にとっての「最適な付き合いかた」を見つけていきませんか？

- 「当たり前」の手作業を疑い、業務のボトルネックを可視化する。
- 業務をシステムに合わせない。システムが業務に合わせる。
- 貴社にとっての「データ化の正解」を選択する。



「事例の詳細が気になる」「こんな悩みを抱えているがそれに対応できる？」など、気になる点があればどうぞお気軽にお問い合わせください。貴社の業務に最適のご提案をいたします。

- AIRead 製品サイト：<https://airead.ai/>
- お問い合わせ：<https://airead.ai/contact/>

 Arise Innovation, Inc.

〒104-0054 東京都中央区勝どき3丁目13番1号 フォアフロントタワー II 12階

<https://ariseinnovation.co.jp/>

 03-5534-9967  sales@ariseinnovation.co.jp

